

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十三年六月二十五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

第 二 十 三 卷 第 七 册

第 二 百 六 十 八 號

昭 和 十 三 年 七 月 一 日 發 行

行 爲 と 論 理 (承 前)

文 學 士 島 芳 夫

批 評 の 藝 術 史 的 意 味

文 學 士 井 島 勉

相 對 性 理 論 を め ぐ る 認 識 論 的

諸 問 題 (承 前) 文 學 士 近 藤 洋 逸

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得  
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會ス  
ルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年五圓、前後二期ニ分チテ前納スベキ  
モノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌  
『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
天野貞祐	臼井二尙	上野照夫	植田壽藏	小島祐馬	高山岩男	木村素衛	九鬼周造	田邊元	西谷啓治	野上俊夫	羽溪了諦	服部英次郎	久松眞一郎	本田義英	山内得立

前 號 目 次

カントの先天總合判斷の最高原則について(承前)……………文學士 大西友太

觀ることに於ける言語……………文學士 河本敦夫

眞智と解脱……………文學士 松尾義海



# 哲學的人間學

京都帝大助教授

高山岩男著

菊判 四〇〇頁  
クロース装 上製函入  
定價二・七〇 送料三三

## 新刊

現實は單に理性的のものでないと共に單に衝動的のものでない。單に論理的のものでないと共に單に無構造のものでもない。私は「生」「作」「成」を人間生存の三つの基本的な仕方と考へ、こゝから人間生存の構造や發展を説明しようとし、それと理性との諸關係を説明しようとした。私は哲學は存在論や認識論に基礎を置く哲學でなく、人間學に基礎を置く哲學でなければならぬと思ふ。でなければ生命共同體や労働や技術や所有などの社會的事實、更に文化の根柢に存する民族性の如き事實は理解できない。況や正鵠な文化政策の如きものが立つ筈はない。私は人間學の統一的觀點から諸種の現象を體系的に説明しようとした。これが他の諸科學の立場に聯絡できれば幸である。(著者)

目次概要―序論 人間學の概念 第一章人間の原來的社會性(人間と生命)Ⅱ血と性 生命 個人の成立 第二章労働の現象學(人間と労働)Ⅱ労働と實在 技術と理性 労働の主體 交換と理性 所有と労働 第三章文化の人間學的研究Ⅱ文化形式の構造 表現の領域 言語 慣習 神話 象徴

西田哲學 高山岩男著

四六判 四二二頁 定價 一・〇〇 送料 二一

東京 神田 岩波書店 振替 東一 〇四二六二

(大正五年四月六日)昭和十三年六月二十五日印刷納本(毎月一回)  
(第三種郵便物認可)昭和十三年七月一日發行(一日發行)

哲學研究 第二百六十八號 定價金四拾五錢 郵税金壹錢五厘